

学校通信

学校生活における大切なお知らせです

9

2024 SEP.

第256号

学校長からのメッセージ

- ◆私が就職活動をした時のことです。学生時代、YMCAのキャンプリーターだった私はYMCAに魅せられて就職したいと思っていました。が、それが叶わない場合も考え、他の企業も探そうとしました。ですが、自分に何が出来るのか、どんな職種に向いているのか…何も浮かびませんでした。そんな時、アルバイト先のマクドナルドで「笑顔がいいね」と言われたのを思い出し、“自分の笑顔が生きる仕事を探そう”と、ある建設会社に応募しました。建設現場で汗だくで働くオジサンたちに、「お疲れさま！」と笑顔でお茶を入れる、これだと私にもできるのでは、と思ったのでした。面接試験で応募動機を話すと、「建設現場に行くことはありませんよ」と、きっぱり。今では笑い話ですが、あの頃は仕事に対する知識も体験も無く、想像が及びませんでした。ただ初めてビルの中の働く女性を見て、少しだけ働くことのイメージをもつことができました。
- ◆生徒の皆さんにとって、学校を卒業することが人生の目的ではありません。私は、皆さんが学校を出た後、人生の長い時を過ごすであろう“働く場”が、自分らしく過ごせる場であり、自身の成長や社会貢献とを感じる場であってほしいと思います。そのために、今から興味があること、興味が持てそうなことにアンテナを張って、体験を重ねてほしいと願っています。興味がなくても、やってみると意外と好きになることもあります。
- ◆本校では一般社団法人“ひらく”との連携を進めています。これは町矢先生が進路に悩んでいる生徒のために“体験と職業人との出会いの場”として設立した法人です。内容は多岐に及びます。例えば、「不登校親の会で、自身の体験を語る」「生駒市長との対談」「竹林ツアーの映像作品」「自作品の展示即売」「カメラマンなど、様々な分野のプロの職業人との交流」「田植えを柱に食べる、作る喜びを味わう稲作体験」などなど…昨年度は延862人の参加があり、27種の職業人との出会いがありました。後期からは、この“体験の場”が「校外講座」として単位認定されます。多くの皆さんが様々な体験を重ねて可能性を広げ、新たな自分を発見されるよう心から願っています。

(校長 鍛治田 千文)

「何事にも時があり、天の下の出来事にはすべて定められた時がある」

(コヘレトの言葉 3章1節)





今月の聖句

イエスは、その人が横たわっているのを見、また、もう長い間病気であるのを知って、「良くなりたいか」と言われた。病人は答えた。「主よ、水が動くとき、わたしを池の中に入れてくれる人がいないのです。わたしが行くうちに、ほかの人が先に降りて行くのです。」イエスは言われた。「起き上がりなさい。床を担いで歩きなさい。」すると、その人はすぐに良くなって、床を担いで歩きだした。その日は安息日であった。

(ヨハネによる福音書 5章6～9節)

エルサレムは城壁都市で多くの門があり、その一つ、羊の門の近くにベトザタ池がありました。五つの回廊の下には、目の見えない人、足の不自由な人、体が麻痺した人が大勢集まっていました。この池は病を癒す効果がある温泉のようなもので、時々湧き出る水に一番入ることが最も癒しの効果があるとされ、人々はその瞬間を狙って池に入ろうとしていました。

そこに 38 年間病気で横たわっている人がいました。イエス・キリストはその人に「良くなりたいか」と問います。この質問に対する答えは「はい」か「いいえ」のはずですが、彼は言い訳ばかりで、「他の人が先に降りていくし、入れてくれる友達もいない」と答えます。この人は、最初は本当に良くなりたくてここに来たのに、いつの間にか一番に池に入ることが目的になっていた。人生の目的を見失っていたのかもしれない。

そこで、イエスは「自分の足で歩きなさい！あなたの目的は一番に池に入るのではなく、良くなることでしょう！」と言います。私たちも日々の生活の中で、目の前のことに気を取られて本来の目的を見失ってしまうことがあります。そんな時、イエス・キリストの「良くなりたいか」という言葉を思い出して生きていきたいと思えます。

(日本基督教団 八尾教会 池田優希牧師)

